

受講番号 18019 学校名 高知丸の内高等学校 氏名 廣内 数也

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生音楽科 生徒数 29 名
 科目名 英語 単位数(授業時数) 4 時間 使用教科書名 Power On English

クラスの様子・特徴

英語力(語彙・文法・表現・読解)そのものは決して高くはないかもしれないが、授業への関心、理解したいという意欲は高い。音楽科生徒ということもあり、発声による英語活動を楽しんで行う傾向が強い。

問題の確定

語彙→文法構文→英文の内容の順で徹底をはかり、英文の内容をイメージしながら音読できるように指導していく。

予備調査

A 授業の観察

語彙指導に関しては発音練習と意味の確認を反復し定着を図ったが、文法構文理解の反復は十分ではなかった。リスニング特訓を絡めた音読活動は生徒が好んで取り組んだが、時間の費やしすぎでマンネリ化現象も見られた。

B 生徒による授業評価

「語彙の意味、文法事項を理解した上での音読は効果的だと思う」という意見が多かったが、「本文全体の音読ではなく、大事な箇所に限らないと音読活動に飽きてしまう。」と感じた生徒もいた。

C 学力データ

音読、語彙指導の反復により、定期考査での成績が飛躍的に伸びた。試験内容は音読をすればするほど成績に反映されるようなものを作ること心がけた。

リサーチ・クエスチョン

英語を正確に理解するための音読活動とは？

仮説・実践・検証

仮説1

与えられた英文内の語彙を正確に理解習得することで英文理解のイメージがより容易になるだろう。

実践1

・板書された語彙、意味、活用法などを自分の手でノートに写す。板書内容をノートに写すことで、自分が最も見やすいミニ辞書がノートに作られる。
 ・発音上の注意、意味、活用法などの確認とリピティングによる音読の反復
 ・本文の英文をCDで聞いて、語彙をチェックする。

検証1

前期は語彙の板書の後、意味と発音の確認を1、2度程度だったが、後期からは単元が終わるまでの間毎時間その単元に出てくる語彙の発音と意味を確認し、合わせてWords Quizを毎時間行った。この活動により、生徒が自然に語彙を習得していく様子が直接見られ、効果的であったと思う。今後も継続していこうと思う。

仮説2

与えられた英文内の文法構文を正確に理解習得することで英文理解が正確なものに近づくだろう。意味の固まりごとに区切りを入れることで、より正確な理解を促す。

実践2

・レッスン本文の英文を1文ずつ板書し、ノートに書かせる。重要項目(文法構文、イディオム、慣用表現など)は色チョークで板書し、ノートには色ペンを使って書かせる。
 ・何度も音読(リピート)することで、文法構文に慣れる。
 ・教科書、ワークの問題を解くことでさらに定着を図る。

検証2

基本的に本文の英文全体を板書し、ノートに写させるわけだが、読むだけで内容が把握できると判断した英文は口頭説明と内容確認のみですませる。英文の理解に必要な文法事項、構文の理解を図り、家庭学習や試験勉強に活用するためにはこの方法が最も望ましいと思われる。ただ、文法構文学習を反復的に行う活動を取り入れなければ、この作業はただの時間の浪費になると考えられる。

仮説3

語彙、文法構文を固め、英文の内容がつかめていれば、内容をイメージしながら音読活動を行うことができ、音読効果もより高いものになるだろう。基本的にはリスニング(区切り入り、一文全体)から音読(区切り入り、一文全体)に移る。音読方法はリピート(教員、CDの音声)、オーバーラッピング、シャドーイング(教員、CDの音声)、オーバーラッピング、シャドーイングへとステップアップをはかる。ナチュラルスピード(CDの音声)をまねるようになることを到達目標とする。

実践3

・穴埋め又はディクテーション形式のリスニング特訓を行う。
 ・意味を確認しながらのリピート練習(Visible Reading, Invisible Reading)
 ・意味を意識しながらのオーバーラッピング、シャドーイング
 ・もう一度リスニング特訓を行い、最初に行った出来具合とを比較する。

検証3

8月のKHシステムのトレーニング内容が大いに参考になった。オーバーラッピングやシャドーイングも区切りを付けた音声CDを作成し、区切りごとの意味を考えながら特訓することで内容理解はスムーズになり、リスニング特訓にもかなり有効になった。ただし、ナチュラルスピードをまねるくらいまでに仕上げるというゴールを達成できたかどうかは疑問である。生徒が自主的に取り組む活動を組み込むことがこれからの課題である。

研究の成果

「英語を正確に理解するための音読活動とは？」という課題を持って、語彙→文法構文→英文の内容の順で3段階に分けた英文理解学習が継続できたことは評価したい。聞こえてきた英文をただ、リピートし、シャドーイングすることではなく、英語の内容を理解し、意識することにより、音読効果がより高まるだろうという確信は持てた。さらに、音読をする上で、リズム、リエゾン等も指導すれば、リスニングでの英文理解も容易になることも分かった。単独授業のため、時間の制約がなかったという利点もあったが、英語指導のいろいろな場面でも活用できればと思う。

今後の授業改善の課題

語彙指導に関しては、書く作業をより多く取り入れるようにしたい。試験でのスペリングミスを少なくすることにもつながると思う。文法、構文指導では、反復学習に欠けていた。授業のウォームアップなどで実施できるようにプランを立てる必要がある。音読指導はマンネリ化を打開することが最重要課題だろう。また、授業以外での音読活動を行う場面設定があるそかになったことも大きな反省点である。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-873-4291

電子メール

kazuya_hirochi@kt5.kochinet.ed.jp